

平成26年度
千種町英語教育研究会
実践記録集



宍粟市立千種小学校
宍粟市立千種中学校
兵庫県立千種高等学校
千種町英語教育研究会

目 次

1 はじめに	2
2 千種町における「英語教育研究会」の活動について	3
3 小中高連携授業（於：小学校・中学校）の記録	4
4 「英語授業研究会」（於：小学校・中学校・高等学校）の記録	5
5 商店街空き店舗活用「千高街の駅・英会話教室」の記録	18
6 資料①：「小中連携英語科学習系統表」（千種町連携一貫教育研究資料）	19
7 資料②：「しそあの逸話 - 千種編 -」翻訳の試み	23
8 資料③：「マザーグース童謡集」（小中高連携授業使用教材）	26
9 資料④：千種高等学校HP英文版ブログに見る「千種の教育活動」	28
10 編集後記	37

1 はじめに

千種町英語教育研究会
会長 喜多 英雄
(宍粟市立千種中学校長)

平成25年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表しました。趣旨は、「初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的充実を図る。2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め、2014年度から逐次改革を推進する。」というものです。具体的には、教科外の「外国語活動」を小学校3年生から始め、小学5年生からは英語を正式教科として教えることや、大学の入学試験でTOEFLなどの外部試験を積極的に活用することなどです。

学習指導要領では、英語教育の目標として小・中・高を通じて、コミュニケーション能力の育成を掲げています。かつてはどちらかと言えば、「読み・書き」に重点を置いた、単語・文法などの知識習得が中心でした。それを社会の場で実際に英語が使えるようになること、つまり「聞く」「話す」も含めて外国の人々とコミュニケーションを取れる能力の育成を目標とすることと定義しています。コミュニケーション能力の育成を目標とする英語教育が学校現場に定着すれば、「グローバル人材」を育てる基盤が出来ると考えられています。

平成22年度に、兵庫県で初めて千種町内の小・中学校に学校運営協議会が設置されました。また同年度に千種中学校と千種高校が「連携型中高一貫教育校」となり、小中高の連携一貫教育体制が確立しました。それらの経緯を踏まえ、本年度も「子どもに夢を 千種に元気を！」という推進目標をかかげ、連携一貫教育の実現をめざして取り組みを進めています。

英語教育においても、今年度は、千種小学校の西尾教諭がZachary Price ALTとのTeam Teachingによる授業を公開し、千種高校の松井教諭・David Berg ALTが千種小学校6年生を対象に出前授業をいたしました。また、10月にはパーマー賞を受賞された加藤京子先生にご来校いただき、千種中学校高下教諭の研究授業への指導・助言及び英語教育の在り方・方向性についてご講義を賜り、英語教員にとって有意義な研修となりました。千種町では、小中高の英語科教員及び外国語活動担当教員が主体となって、出前授業・相互授業参観・情報交換を通じて、小中高一貫した英語教育に取り組んでいます。

来年度も小中高の教職員の心をつなげて、国際的視野を持った児童・生徒の育成を目指して、邁進していくことをお約束してはじめての言葉といたします。

2 千種町における「英語教育研究会」の活動について

千種町英語教育研究会
事務局 原田 尚昭
(千種高等学校教頭)

1. 「英語教育研究会」活動の意義

平成25年度は、英語教育界にとって大きな変化を見た年となりました。小学校に「外国語活動」が導入されて3年目となり、12月には5・6年生での「英語」や3・4年生での「外国語活動」の将来的実施が決定されました。また、高校では新学習指導要領の導入と共に「英語の授業は英語で行う」ことが基本とされたのも昨年であり、将来的には中学校でも実施されることが文部科学省の「英語教育改革計画」の中で示されました。このような動きの中で、町内の小中高校が手を携えて情報交換を行い、共に授業研究を行っていくことには大きな意義があると考えています。大きな進歩があったか否かは別としても、とにかく互いに「動くこと」が大事であると考え、本会の活動を行っています。

平成26年度においても、上記計画で示された方向性に基づいて文科省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」の中で議論がなされ、「グローバル化に対応した英語教育改革五つの提言」が発表されています。(1. 国が示す教育目標・内容の改善、2. 学校における指導と評価の改善、3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善、4. 教科書・教材の充実、5. 学校における指導体制の充実)既に、新聞報道等でも指摘されていますように、次の学習指導要領改訂の目玉は正にこの英語教育改革であり、小学校教員における英語免許問題の解決と指導技術の向上が本当に全国津々浦々にまで実現され得るのかということはあるにしても、国や県が何とかしてくれるであろうという発想ではなく、「自分たちで動き、学ぶ」ということを地域の学校園が一丸となって進めていくことが、まずは肝要であると考えています。

2. 「千種町英語教育研究会」平成26年度の動き

5月中旬	兵庫県教育委員会主催「教職員自主的研究推進事業」申請 6月認可
6月14日(土)	小中連携授業「外国語活動」実施(於:千種小学校)
7月3日(木)	中高連携授業実施(於:千種中学校)
7月16日(水)	小高連携授業実施(於:千種小学校)
8月中旬	「しその逸話一千種編」英語翻訳作業(千種中高教員・ALT)
9月16日(火)	DaveとZachの英会話教室(商店街空店舗活用事業)以降月1回実施
10月16日(火)	第1回英語授業研究会・講演会(於:千種中学校)
11月25日(火)	中高連携授業実施(於:千種中学校)
12月3日(水)	第2回英語授業研究会(於:千種高等学校)
2月3日(火)	第3回英語授業研究会(於:千種小学校)
3月下旬	本年度研究活動のまとめ(本冊子作成)

3 小中高連携授業「英語」(於：小学校・中学校)の記録

平成 22 年度の「連携型中高一貫教育校」への改編前後から、中高間で教員が互いの学校を訪問して授業を行うという「連携授業」を各教科で行ってきた。英語科では平成 25 年 8 月に千種高校史上初の常駐 ALT・David Berg を迎えたということもあり、中学校はもとより平成 26 年度は高校英語科教員が小学校に出かけて外国語活動の授業を行うことが多くなった。

授業内容の詳細については、小学校では欧米の童謡「マザーグース」を題材とした発音練習と英語版フルーツバスケットを楽しみつつ英語の語彙力強化を図る授業を行った。そして中学校では、特に 11 月千種高校 2 年生グアム島修学旅行帰国報告を題材に、生徒たちが自ら手分けして中学生向けにレポートを英語で行った。その内容原稿は、千種高校HP 英文版にも掲載し、広くどなたにでもいつでも読んでいただけるよう工夫をしている。

千種町では、全学校園及び全教科において数年前から「連携授業」というものを相互に実施している。つまり、千種町内の保幼小中高で教鞭を執るすべての教員が毎年少なくとも一回は他の校種の学校園に出かけて授業を実施することが義務付けられているのであるが、そのような教育文化・環境があるからこそ、「千種町英語教育研究会」はそれ程大きな壁を感じることなく発足させることが出来たのである。これは、他町では考えられないことであろう。今年度特に「外国語活動」及び文科省による「英語教科化」という動きを媒体として、千種小学校の先生方により積極的に関わっていただけたことは、昨年度とは異なる非常に大きな進歩であったと考えている。

以下、その主な授業の様子を各回の写真によって報告する。

<p>① 7月3日(木) (於：千種中学校)</p>		
<p>② 7月16日(水) (於：千種小学校)</p>		
<p>③ 11月25日(火) (於：千種中学校)</p>		

4 「英語授業研究会」(於：中学校・高校・小学校)の記録

(1) 第1回英語授業研究会：平成26年10月16日(火)13:15~15:30(於：千種中学校)

内 容：5限 授業参観 千種中学校英語科 高下 愛 教諭

2年1組(男子12名 女子18名)

教科書：Sunshine English Course 2 [開隆堂]

単 元：Program 6 “Work Experience Program”

6限 研究協議・講演

「生徒が楽しみながら力をつける Teaching English through English」

参加者：中学校 喜多校長 高下教諭 入田講師 Zachary Price

高 校 原田教頭 松井教諭 田中講師 岸講師 David Berg

講師・指導助言者：加藤京子先生(東洋大学附属姫路中・高等学校教諭)

加藤京子(かとう きょうこ)先生 プロフィール

東洋大学附属姫路中・高等学校教諭 三木市立中学校英語科教諭を経て、昨年12月より現職 1994年、英語教育界の最高賞である「パーマー賞」(語学教育研究所)受賞(兵庫県では賢明の稲岡章代先生と共に2名のみ)、Teaching English through Englishの先駆的存在 「英語授業研究会」理事 実践発表・研究発表・講演等枚挙にいとまなし 共著書：「英語授業改善への提言」(教育出版 2012)、「成長する英語教師をめざして」(ひつじ書房 2011)、「英語授業ハンドブック」(大修館 2009)、「だから英語は教育なんだ」(研究社 2002)、「英語授業Q&A」(中教出版 1996)、「個性・創造性を引き出す英語授業」(研究社 1994) 等多数

第1回英語授業研究会点描



今年度第1回の英語授業研究会は、昨年同様姫路から高名な先生をお招きして中学校の授業を御参観いただくとともに、研究協議の場においては中高教員による授業評価や情報交換等を行った。分けても、兵庫県で2名しかおられない英語教育の最高賞である「パーマー賞」(語学教育研究所)を受賞された先生方に2年続いて千種にお越しいただき、長年のご実践に基づくご講話を聴く機会に恵まれたことは、生涯忘れ得ぬ貴重な経験となった。

[高下教諭教案]

Lesson Plan

JTL: Takashita Megumi

ALT : Zachary Price

1. Date : Thursday, October 16, 2014
2. Class: 2-1 with 30 students (12 boys, 18 girls)
3. Textbook: Sunshine English Course 2, Program 6 "A Work Experience Program"
4. Allotment of this lesson [2 / 7]
 - 1st period: Introduce new grammar pattern [I like to play baseball.]
 - 2nd period: Introduce developmental grammar pattern [I want to be a doctor.] *this period
 - 3rd period: Read Program 6, part 1
 - 4th period: Read Program 6, part 2
 - 5th period: Introduce new grammar pattern [I want something to drink.]
 - 6th period: Introduce new grammar pattern [I want something to drink.]
 - 7th period: Read Program 6, part 3
5. Objectives of this lesson:
 - (1)To understand the nominal infinitive "want to".
 - (2)To tell other students about what they want to do or to be.
6. Teaching Aids: picture cards, sentence cards, worksheets
7. Teaching Procedure:

Procedure	Teachers' Activities	Students' Activities	Four Skills
1. Greeting	Greet students. Set the English class mood.	Greet the teachers.	Speaking
2. Warm-up	Questions and Answers Review material from previous class. Ask some questions using "What do you like to do?" [Example] T: I like to play table tennis. Do you like to play table tennis? S1: No, I don't. T: What do you like to do? S1: I like to play baseball. T: What does S1 like to do? Ss: She[He]likes to play baseball.	Find their partners and do Question and Answer activity. Answer the questions. Remember the meaning of "to + verb."	Listening Speaking

<p>3. Introduction of the target sentence and practice</p>	<p>Show some pictures and explain them.</p> <p>Let the students guess the meaning of "want to."</p> <p>[Example] (1) She is so hungry. She wants to eat lunch. (2) He is sleepy. He wants to go to bed early. (3) He likes to play baseball. He wants to be a baseball player.</p> <p>Ask some questions using "What do you want to ~?" [Example] What do you want to eat for dinner today? What do you want to do after school? What do you want to be in the future?</p>	<p>Listen to the teachers' talk.</p> <p>Guess the meaning of "want to."</p> <p>Answer the questions.</p>	<p>Listening Speaking</p>
<p>4. Activity</p>	<p>There are five questions. The students must select their favorite answer and ask other students about what they want to do.</p> <p>If their answers are the same, they are well matched.</p> <p>The students search for another student with as many similar answers as possible.</p> <p>Explain the content of the activity and demonstrate it with the ALT.</p> <p>Have the students practice the important expressions and emphasize that the target sentence should be used.</p> <p>At the end of the activity, lead the students in repeating the target sentence.</p>	<p>Listen carefully and try to understand the activity.</p> <p>Choose what they want to do from the answers provided, then exchange information with other students to search for their 'best match', the student with the most similar answers.</p> <p>Write about their matches.</p>	<p>Listening Speaking Writing</p>
<p>5. Consolidation</p>	<p>Give homework and briefly explain the points of the next lesson.</p>		

[教科書該当単元]

PROGRAM 6

A Work Experience Program

1 自分のしたいことが書えるようにしよう。

Basic Dialog

Q: What are your plans for the future?
 A: I want to be a doctor.
 Q: Do you want to help sick people?
 A: Yes. Especially sick children.

「～すること」と言うときは、(to + 動詞の原形) の形を使います。

① かつの別語を聞いて、それぞれ内音に合う語を選びましょう。

1. () 2. () 3. ()

Kumi, Mari, Mari, Kumi

② 聞こえない、上の絵について言いましょう。

例) A: Does Kumi want to have a cat [dog]?
 B: Yes, she does. / No. She wants to have a cat.

[Mari, cat, dog]
 [Mari, milk, tea]
 [Kumi, milk, tea]

③ 聞こえない、今週末にしたいことについて友達と相談しましょう。

例) A: What do you want to do this weekend?
 B: I want to watch a movie.

play a computer game
 help my mother
 go out with my friends

My four

6-1

ワークシートは自由参加型学習の形で行います。

ワーク先生が授業内容について自由にたずねています。

My Project 5

① nursery (nursery)
 ② stadium (stadium)
 ③ sang (sang) (singの過去形)
 ④ nurse (nurse)
 at once
 in the future
 would like to ~
 ⑤ care (care)
 take care of ~

Ms. Wood: Yuki, where did you work?
 Yuki: I worked at a nursery school near the soccer stadium.
 Ms. Wood: Really? What did you do there?
 Yuki: I sang songs and played with the children.
 Ms. Wood: Did you enjoy the experience?
 Yuki: Yes. I had a wonderful time there. The children liked me almost at once.
 Ms. Wood: Do you like to play with children?
 Yuki: Yes, very much. I want to be a nursery school teacher in the future. I would like to take care of children.

① Where did Yuki work?
 ② What is her plan for the future?

④ 写真の夢について文を書きましょう。絵事は授業資料を参考にしましょう。
 例) I want to be a musician like Ayu in the future.

My four

[補助プリント教材]

BEST MATCH

Name _____
 Year [] Number []

★ Draw a circle around the thing you want to do from the options below

1. What do you want to do after school today?

sleep / play video games / watch TV / read a book

2. If you eat at a restaurant tonight, what do you want to eat?

Chinese Food / Fast Food / Sushi

3. What do you want to do this weekend?

go shopping / stay home / see a movie

4. If you travel abroad, where do you want to visit?

America / France / India

5. If you can change yourself, what do you want to be?

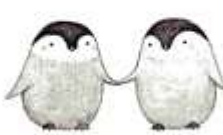
super smart / very good at sports / beautiful / cool

★ Talk to your friends. Find someone who wants to do similar things to you!

NAME	1	2	3	4	5
Tare Tanaka	O	X	X	X	O

★ When you find your best match, write about them!

1) _____ wants to _____ after school.
 2) _____
 3) _____
 4) _____
 5) _____



千種市立教育研究会主催
平成26年度第1回英語授業研究

2014.12.16

生徒が楽しみながら力をつける Teaching English Through English

東洋大学附属経路中学校・高等学校教諭 加藤京子
(元 三木市立緑が丘中学校教諭)

1 体験する授業の大切さ

- ① 「英語について」説明を受けるのは退屈
- ② 外国語とは何かを、丸ごと感じさせ、理解させる
音 (発音、リズム、身体性)に口からどこにかけての筋肉の使い方)
ノンバーバルな表現 (仕草、視線、姿勢の戻り方、表情)
ジェスチャーの使い方ではない
文法の違い (広義: 何を言葉にし、何を言わないかの違い) 授業: 操作、形
文化 (何が大事であるかが異なる) しかしもう一歩奥へ進むと共通性が存在)

③ 英語が使われる世界への興味を育てる

- (例) サッカーと racism (アフリカ選手への辱罵。寄せられた "We are all monkeys.")
Makia Yousefani さんのスピーチ
"One child, one teacher, one pen and one book can change the world.
Education is the only solution. Education First."

2 授業をどう組み立てるか

- ① 授業を始める
英語で始める・・・いつも決まった質問 学力の低い生徒も安心して聞き答える
Sem1 talk・・・その日の話題 クイズ形式で与えるのも1方法
教師が一方向的に話さない、Interaction を心がける。
- ② 生徒が英語を使う時間を取る
発音練習 チャンツ 歌
対話練習 (ペアで) → 1箱が用へ出で慣じる/ 当番生徒が箱へ出て話す
スピーチ
- ③ 復習 節時に使用したプリント/ 習った教科書の本文を音読
* 中学2年生1学期までは、生徒が音読できるよう
丁寧に指導するとともに指導を欠かさない。
* 上手に読めるように教える

音読
声量コントロール
単語の発音
音の連結・消失
リズム
文法理解
場面理解

④ 文法導入と練習

- ・場面提示 [英語] その文法事項が使われる必然性のある場面を使ってみせる
1 文で提示せず、必ず英文で提示 [文脈の大切さ]
英語の文と意味と単語を一致させる
- ・理解の確認 [英語 または 日本語] 英語にこだわらなくてもよい
文法の説明
- ・口頭らし練習 [英語] 生徒が言いたくなるような文で何度も言わせる。
・生徒が自分の工夫を入れながらの練習 [英語]
・書く、読む練習・・・ワークシート利用 文脈のある練習
* 練習のし方の良い点、悪い点
- ・ワークシートに工夫
* 易 → 難 → 創造工夫が要する課題
- ・時には、裏に表と同じ内容を印刷。表は問いのみ、裏は答えも記入済で配布。

⑤ 教科書本文

- ・ピクチャーカードを用い、教科書本文で理解させる [英語]
予め3つ程度質問をふる、聞き取るポイントを示す。[英語 または日本語]
・ 脚本で本文朗読を聞かせる・・・音と文字の一致、聞き取れなかった箇所の確認。
・ チャンクごとに意味を捉えさせながら、教師が日本語でどんどん質問していく。[日本語]
スラッシュを入れさせる
対訳文・・・たまたに方言で訳させてみる ⇒ 日本語と英語の表現の違いが浮き彫りになる
・音読練習
様々な方法で読ませないように練習する。
生徒同士の前読もアクティビティになる。
- ・理解の確認
音読 Tor F Q&A 書き換え 等

⑥ 家庭学習課題 音読・筆写・その日習ったことを自分の場面で使ってみる課題

3 生徒の心と脳をゆさぶる仕掛け

- その日の話題
教材の提示方法
教科書本文の与え方
本文の内容についての発問

参考資料: 「英語授業改善への提言」 教育出版 2012
「(未定 Q&A)」 教育出版 2013 か 2014 (出版予定)

資料 偉人伝名詞の指導ワークシート4枚
これはどんな人？

Class 3-() Name()

1 Quizzes

(Ex.) Cinderella シンデレラ Prince Kaguya カぐや姫 Snow white 白雪姫

1. (Ichiro イチロー Matsui Hidetoshi 松井秀喜 Tanaka Masahiro 田中賢大)



2. (Exile Exile Arashi Arashi GReeeeN GReeeeN)



3. (Nobunaga 織田信長 Hideyoshi 豊臣秀吉 Ieyasu 徳川家康)



4. (Moriotoshi 森田正樹 Kintaro 金太郎 Washimotero 清原元徳)



5. (Barack Obama F 30 + 30 ? Hatoyama Yukio 鳩山由紀夫 Seo Eusaku 西郷从彦)



6. (Gareth Chris Kerry) ... + 名前が空になった人を入れて

7. (Mr. Kawahara Mr. Yabata Mr. Hoshimoto)

17

2 Please connect the sentences and complete.

① Mr. Obama is the president

② Aze-theryu is the sumo wrestler

③ Johnny Depp is the handsome actor

④ Nobuko Keiji is the man (注 教科書の目録参照)

⑤ Hasegawa Kazumi is a boxing champion

A who appeared in the movie "Charlie and the Chocolate Factory"
I who is from Mongolia.

U who worked for the people in Bhutan very hard and died there in 1998.

I who is from Niigata City.

O who lives in the White House now.

K who said "Government of the people, by the people, for the people shall not perish from the earth."

・whoの次は
動詞ですよ！
・なるべくた
くさん単語を
使う！

3 班で協力して who を用いて人物を説明する文を完成しましょう。

(Ex.) Natsume Soseki is the writer who wrote many great novels in Meiji Era.
または Natsume Soseki is the writer who is still loved by many Japanese.

① Mother Teresa is the person _____

② リーダーが引いてきた人物についての文章を完成させてください。

前プリント「リーダーが引いてきた人物について書くこと」の英文を
Chitosemichi is a girl. Doraemon is a robot. Tetsuo Akiho is a cool
Shimada is a famous TV talent. Takayama Kenji is a footballer.
Fujita Kazuhiko is a soccer player. Black Jack is a doctor.
Takahashi Naoko is a marathon runner. Michael Jackson is the great artist.
Andrew is an English teacher.

提出書類 Date _____ 2009

Class 3-() Name()

次のテーマによって作文しなさい。

今日の writing のポイントは「人物を説明する who + 動詞」を使うことです。

1 自分の家族、または友人について1行作文を書こう。

(Ex.) I have a brother who plays the trumpet in a rock band.

I have an uncle who has been to the I.K. astro base.

① _____

② _____

2 新しくできるなどのような未来がいろいろですか、こんな友人が欲しいという文を書こう。

(Ex.) I want a friend who can ski very well.

I want a friend who likes to run when I am very old.

3 自分の家族、親戚、友人の中から1人を選んで、3行作文を書いてみよう。

何をよみて書こう。もちろん3行を超えてもよい。

(Ex.1) I have a friend who lives in Hiroshi, Aomori.

She sends me a lot of apples every year.

I want to go to Aomori to see her.

apple オビ 4500 400
omori いとこ
brother 兄弟

(Ex.2) I have a cousin who is playing soccer in Suzuki High School in Nagasaki.

He is a really good player.

I hope that he will play for one of J-league soccer teams in the future.

読解代名詞 who

A Rachel Carson? Who is she? 「レイチェル・カーソンですって？お母さん？」
= どの who は誰か？ (2/2)

B She is the scientist who wrote the famous book Silent Spring.
「カーソンは、あの有名な鳥、環境の書、毒薬の科学者です。」

※ ①②③ 動詞 _____ の部分が、who のすぐ前の動詞 scientist を説明しています。この who が読解代名詞とわかります。



「読解の書」は
chemical (毒薬)
の毒薬を初めて
発見した人

練習 1 訳しなさい。

① I have a friend who lives in Hokkaido. ()

② Yashio Aki is an actor who is very popular among truck drivers. ()

③ Do you know the girl who is playing the trumpet under the tree? ()

練習 2 () 内の単語を空へかいて文を完成しなさい。

① I have an uncle who () a / farm / has / Hokkaido / in / big.

② Mori Ogai is the writer who () many / wrote / novels / in the Meiji era.

練習 3 動詞 _____ を用いて、それぞれの人物を説明する文を完成しなさい。

① Miyazawa Kenji is the writer _____

② Soshonason is the woman _____

※ who が修飾している名詞を先行詞(せんこうし)と呼びます。
No Mancho is one of the four boys who went to Rome in the 10th century.

先行詞 読解代名詞
「伊東マンショは16世紀にローマまで行った4人の少年のうちの一人名です」
who-がどの名詞についているかを見分けることが大切です。

練習 4 主題に who-の説明がつく場合

A person who takes care of sick people in the hospital is called a nurse.

「病院で患者の看病をする人」を 看護婦 と呼びます。

次の文の () にはあてはまる語を書きなさい。

① A person who grows rice, vegetables and fruits for food is called ()

② A person who teaches students at school is called ()

③ The Japanese woman singer who has the highest sales is ()

(2) 第2回英語授業研究会：平成26年12月3日（水）13:10～15:00（於：千種高等学校）

内 容：5限(13:10～14:00) 公開授業参観 [選択教室1]

松井利澄 教諭 コミ英Ⅱ（2年チャレンジコース）[男子3名 女子8名]

6限(14:10～15:00) 研究協議（会議室）

参加者：中学校 喜多校長 高下教諭 Zachary Price

高 校 原田教頭 松井教諭 田中講師 岸講師 David Berg

※5限の授業には、千種小学校から田住校長先生にもお越しいたごき、千種町内小中高の教員が揃う形での公開授業となった。

この回の英語授業研究会の意義は、一つは小中高の教員が共に高校の英語授業を参観し、普段ご覧になっていただくことのない本校の授業を小学校の先生方にも見ていただいたことにある。英語教育の方法論云々ではなく、実際に千種高校の授業を見ていただき、少人数授業の在り方や生徒に興味を持たせながら授業を進める様子を見ていただくことができた。今一つは、電子辞書と電子黒板を用いて授業を行い、授業のICT化への課題に果敢に取り組んだことである。研究協議でも、指導者が機械操作に習熟しておくべき等の幾つかの課題が指摘される場面もあったが、「挑戦なくして進歩なし」との気概を持つての立派な実践であった。

千種高校は、ほとんどの教科において写真のような少人数授業を実践している。教科指導であれ、生徒指導であれ、きめ細やかな指導・教育を校是としているのである。

第2回英語授業研究会点描



Teaching Plan in Communication English II

Instructor: MATSUI Toshizumi

1. Date & Period 5th period, Wednesday, December 3rd, 2014
2. Class 2-1(Challenge Course), 12 students
3. Textbook BIG DIPPER ENGLISH COMMUNICATION II (*Suken Shuppan*)
Lesson 3 "When East Met West in the Kitchen"

4. Allotment

- 1st Introduction, Part 1 (p.30~33) *this period
- 2nd Part 1 (p.32~33)
- 3rd Part 2 (p.34~35)
- 4th Part 3 (p.36~37)
- 5th Part 4 (p.38~39)
- 6th Review (p.40~41)

5. Viewpoint of teaching materials, students and teaching methods

(1) Viewpoint of the teaching materials

This lesson is about the acceptance of foods from abroad. After *Bunmeikaika*, Japanese people has changed their eating styles dramatically. Students can be attracted to the content easily. Target grammars are sentence pattern and relative clause.

(2) Viewpoint of the students

The class is called "the Challenge Course". So they are highly motivated in studying English. However, some of them feel it is difficult and they are not so good at the subject. But many of them can concentrate in studying.

(3) Viewpoint of teaching methods

Teacher should check whether students can understand the content of the textbook to find out their degree of their understanding, using some kind of checking methods. It is also important to motivate them to study English positively.

6. Aims of this lesson

- ① To learn new words
- ② To understand the episodes
- ③ To understand sentence patterns
- ④ To get used to English rhythm through reading aloud

7. Evaluation of this lesson

- ① interest and attitude
- ② expression
- ③ understanding

8. Teaching procedure in detail:

Procedure	Activities of the students	Activities of the teacher	Notes
Warm-up (7mins)	Greet the class and answer what the teacher asks them.	Greet and ask some questions which are relevant to today's lesson to each student. Give students today's topic	Today's topic is about foods.
Introduction and more information about <i>Bunmeikaika</i> (3mins)	Watching the dictionary, confirm the history of Meiji period.	Show some data about <i>Bunmeikaika</i> .	Instruction and asking some questions in English
Checking new words and phrases (5mins)	Pronounce the new words and phrases. Check the Japanese meanings.	Confirm the meanings and pronounce the new words and phrases and make students repeat them	
Reading (27mins)	Listen to the CD carefully and answer some questions. Read aloud once and think about the questions. Read each sentence and interpret them into Japanese.	Make students read aloud and answer some questions about the content in Japanese. Help students to translate sentences easier if they have difficulties in translating and explain the points in the textbook, asking some questions of the class. Check their interpretation which students had translated as homework and correct if necessary.	Instruction mainly in Japanese
Reading Practice (5mins)	Read aloud what they have studied and think of the content they have studied.	Walk around the class, checking students' pronunciation.	Read and Look up
Ending (3mins)	Confirm the next part	Assign homework.	

When East Met West in the Kitchen

百年から日本人の外国文化の受け入れ方を考えてみよう。

Do You Know?

1 Listen and fill in the blanks with the correct answer.

Year	Instant Curry
1936	sold in powder form
(1)	sold in block form
(2)	sold in retort form

* powder[paʊdə] 粉 retort[ri:tɔ:t] レトリート
 † instant[ɪn'stənt] インスタント curry man[kɪrɪ mæn] インスタントのカレーマン
 melt[meɪt] 溶かす

Tips for Reading

単語のファミリーを増やそう!

produce(作り出す)という動詞には、producer(生産者)や product(製品)などの派生語があります。派生語に注目して、単語のファミリーを増やしましょう。

次の語を調べよう。

- sleep の形目調
- succeed の名詞

Dictionary 派生語の引き方

Pronunciation アクセントの移動

Grammar Point 疑問詞に続くもの(SVO(O = wh-節) / SVO(O₁(O₂) = that-節) / 名詞を説明するもの(関係代名詞の接続用法)

2 Many events happened in Japan in the Meiji period. Fill in the blanks below.

Year	Events
1870	Common people began to use their family ().
1871	Postal services started throughout Japan.
1872	The first Japanese () was built between Shimbashi and Yokohama.
1873	The first Japanese () was established.

* establish[ə'stæblɪʃ] 設立する

アクセントの移動

2つ以上のアクセントがある語は、すぐ後ろに別の語が続く場合、リズムを整えるために一番強いアクセント(´)の位置が変わることがあります。

thirteen + members → thirteen members Japanese + culture → Japanese culture

このように、一番強いアクセントの位置がずれられ、英語の好ましいリズムになるからです。

次の語句や文を発音しよう。

- Chinese food
- a well-known book
- New York City
- We clearly understand.
- We understand clearly.

PART 1 When did Western culture come to Japan?

People are often surprised when they encounter a foreign culture. For the Japanese, one such time was the Meiji period. Under the slogan *bunmeikaika*, Japan introduced many new ideas and items from Western countries.

First, let's look at clothing and architecture. People began wearing Western clothes and shoes. Men gave up the *waga* in favor of Western hairstyles. Western architectural designs were also adopted. For example, redbrick buildings with verandahs, chimneys, and bay windows began to appear on Japanese streets.

Another important part of people's lifestyle is food. In the Meiji period, Western ingredients and dishes were introduced into Japan. Over the years, these were adapted to Japanese tastes. By looking at some of today's familiar dishes, we can see how Japanese eating habits have changed in the past century and a half.

文明開化(明治)風景(三代目) (東京府化三六番目)

2. each time 何回ありますが、14. these は何を指しますか。

12. important を辞書で引いて、その名詞を確認しよう。

7. *give up B. in "favor of"

10. redbrick [redbrɪk] 赤レンガ造りの 10. verandah(s) [vɛrə'nɔ:dəz] ベランダ 10. chimney(s) [tʃɪmni:] 煙突 10. bay [beɪ] window(s) 凸窓

Hints for Understanding

疑問詞に続くもの 3

文型の復習
 SVO(O = wh-節)
 117 We can see how Japanese eating habits have changed in the past century and a half.

Read It Through

2 Answer true or false.

- In the Meiji period, Japan began to adopt Western lifestyles.
- Men began to have their hair cut short at the time of *bunmeikaika*.
- Japanese people have kept the original tastes of imported Western dishes for 150 years.

3 Match each word with its meaning.

① adapt

② adopt

③ architecture

④ clothing

⑤ ingredient

- one of the foods that you use to make a particular dish
- to start using something new
- the things that people wear
- to change something in order to make it suitable for a new use
- the design of buildings

It's Your Turn!

Look up a change in Japanese lifestyle in the Meiji period in the library or on the internet, and tell your classmates.

_____ began to _____

Hints Some people / use a knife and fork.
 People / adopt[use] the Western calendar

(3) 第3回千種町英語授業研究会：平成27年2月3日(火) 13:40～15:15 (於：千種小学校)

内 容：5限(13:40～14:25) 公開授業参観 (外国語活動)

西尾紀彦 教諭・Zachary Price ALT (5年生)

松井利澄 教諭・David Berg ALT (6年生)

6限(14:30～15:15) 研究協議 (会議室)

参加者：小学校 西尾教諭 谷尻教諭

中学校 喜多校長 高下教諭 入田講師 Zachary Price

高 校 原田教頭 松井教諭 田中講師 岸講師 David Berg

保育園 岡 園長

第3回目の英語授業研究会は、小学校教諭が外国語活動の授業を、「英語」授業化への動きを見据えて主体的に実施し、尚且つ、小学校教諭の免許を持つ高校英語科教員が、小学生を対象に外国語活動の授業を実施して、2つの授業内容について小中高の教員が協議する機会を持てたことに大きな意義がある。

さらに、宍粟市教育委員会からも春名教育研究所長様と山本学校教育課副課長様に授業の視察にお越しいただき、千種町連携一貫教育に基づく英語教育実践の一端をご覧いただけたという意味で、歴史的な快挙であったと言っても過言ではなかろう。今年度の活動の意義は、正にこの第3回目が実施できたということに凝縮されているのである。

第3回英語授業研究会点描



第5学年外国語活動指導案

授業者 千種小学校教諭 西尾 紀彦 (T1)

千種中学校 ALT Zachary Price (T2)

- 1 日 時 平成27年2月3日(火) 第5校時(13:40~14:25)
- 2 対 象 千種小学校第5学年19名(男子8名、女子11名)
- 3 単元名 Lesson 8 I study Japanese. [Hi, friends! 1] (文部科学省作成外国語活動教材)
- 4 目 標
 - (1) 友達の好きな教科や夢の時間割について、英語で聞くことができる。
 - (2) “What subject do you like?” や “What did you study 1st period?” の表現を積極的に使い、英語に慣れ親しむ。
- 5 準備物 教科名を英語で表したカード
- 6 展 開

	教師の活動	児童の活動	指導上の留意点
導 入	1 Command Practice 2 New words 教科[subjects]について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の指示を聞いて、その動きをする。 ・ 前時で学んだ単語について復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1 と T2 が交互に指示をする。 ・ 単語の復習では以下のように行う。 ① T2→児童→T1→児童 ② 児童だけ ・ ①②を終えて、発音等改善すべき点があれば、T2 が訂正する。
展 開	3 “What subject do you like?” “What did you study in the 1st period?” 4 Listening 5 夢の時間割を作ろう。 6 友達の夢の時間割を聞こう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師から始めて、児童が友達に対して聞く。それをつないでいき、“What subject do you like?” の表現を身につける。 ・ T2 の言葉を聞いて、時間割を聞いていることを理解し、時間割を答える。 ・ 教科書の登場人物の夢の時間割を聞いて、教科書に書きこむ。 ・ 夢の時間割を作る。 ・ 友達に夢の時間割を英語で尋ねて、教科書に書きこむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T1 と T2 が交互に質問する。 ・ 詰まったり、表現が上手くできなかつたりする児童には、T1 が支援する。 ・ 日本語は使わず、前面にある時間割を指差すことで、時間割を聞いていることを感じ取らせる。 ・ 「さくら」は T2、「たく」は T1 が行う。 ・ なかなか時間割を作れない児童には、T1 が質問して答えたものを書かせるようにする。 ・ なるべく多くの友達に聞けるように、教室全体を動けるようにする。 ・ 本時で学んだ表現が使えるように机間指導する。
ま と め	7 次時の予告をする		

第6学年外国語活動指導案

授業者 千種高校教諭 松井利澄
千種高校 ALT David Berg

- 1 日時 平成27年2月3日(火) 第5校時(13:40~14:25)
- 2 対象 千種小学校第6学年23名(男子17名、女子6名)
- 3 目標
 - (1) 英語の歌やフォニックスを通じて、英語独特の発音・読み方を学ぶ。
 - (2) 方向を表す表現方法を学び、実用化することで簡単な単語の語彙定着を図る。
- 4 準備物
iPad、テレビ、ワークシート、フラッシュカード
- 5 展開

	児童の活動	教師の活動	備考
Introduction 5分	Q&A	自己紹介(JTE、ALT)	
Warm-Up 歌10分	英語の歌を聴く 簡単な表現は口ずさんでみる	iPadで紹介(JTE)	テレビ画面に映し出す
Activity① フォニックス 10分	フォニックスに関する歌を聴き、リズムに乗ってリピートする “a”の発音の違いに気をつけ、ALTに続けて全員で発音する	“a”の発音のみを取り上げ、同じaでも単語によって発音が異なることを確認する。(ALT)	iPad、テレビ、フラッシュカード (“a”に関するピクチャーカード)
Activity② クリス・クロス 15分	全員起立 質問を投げかけ、挙手した児童に当てる 正解出来たらカードをひく そのカードの方向にいる人は座ることができる	ルール説明(英語で) ※時間があれば2チームで対抗戦。先に全員座ったチームの勝ち	フラッシュカード (方向を表す単語と矢印入り)
Conclusion 5分	自己評価と感想を書く		振り返りシート

5 空き店舗活用 「千高街の駅・英会話教室」の記録

平成26年度は、千種町商店街空き店舗を活用し、「千高街の駅」と称する千種高校の活動場所を町内に開設したことが大きな進歩であった。主な活動は、「妙見夏祭り（7月）」・「ちくさふれあいフェスタ（10月）」・「ちくさのクリスマスランド（12月）」等の町のイベントにあわせて千種高校のユニークな部活動紹介等を行うというものであったが、千種町内在住の2人のALTから同店舗を活用して市民のための英会話教室を開きたいという積極的な提案があり、9月以降毎月1回実施してきた。参加者の多くは町内の住民及び千種高校教員であるが、中には遠く山崎町や一宮町北部からお越しになる方もあり、その熱意には本当に頭の下がる思いである。（ALT 中学校 Zachary Price ・ 高校 David Berg）



<英会話教室勧誘チラシ>

(1) 英会話教室実施日程（実施時間：19:00～20:30）

- | | | |
|----------------------|---------------|------------------------|
| 第1回 9月16日（火） | 第2回 10月14日（火） | 第3回 11月18日（火） |
| 第4回 12月16日（火）…雪のため中止 | 第5回 1月20日（火） | |
| 第6回 2月17日（火） | 第7回 3月17日（火） | <u>※平成27年4月から月2回実施</u> |

(2) Dave と Zach の英会話教室点描



<p>Lesson 5 What do you like? ④ 色・形</p>	<p>・好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ・色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の音の違いに気をつける。</p>	<p>What do you like? What animal/color/fruit/sport do you like? I like rabbits/red/bananas/ soccer.</p>	<p>I, like, you, do, yes, no, don't, red, blue, yellow, pink, green, brown, orange, purple, black, white, T-shirt, heart, star, circle, triangle, animal, color, fruit, sport</p>	<p>☆ウツド先生がやってきた (PROGRAM 3・1年) ★ALPのMa Woodが得意で自己紹介をする。自分の名前、出身地、自分が話す言語、自分の好きなことについて話す。 ○ speak, have, like, love, watch, study, clean, go, cook, etc I like music. I like music too. I play the piano. Do you eat sushi? Yes, I do. No, I don't. I don't like sushi. ● ① スピード 好きなこと、すること ● ② 一般動詞を用いた自己紹介ができるようにする。さらに一般動詞を含む否定文を使えるようにする。 ☆人を紹介しよう (My Project 2・1年生) ★好きな人を紹介する。 ○ I am _____. My name is _____. I'm from _____. I like _____. I speak _____. I play _____. I'm in the _____. ● ① 人を紹介 (Show & Tell) (理解) ● ② 人を紹介 (Show & Tell) (書き方) ● ③ 自己紹介 (書き方)</p>
<p>Lesson 6 What do you want? ⑤ アルファベット大文字身の回りの物</p>	<p>・積極的にアルファベット大文字を読んだり、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 ・アルファベットの文字とその読み方を一致させ、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・身の回りにはアルファベットの文字で表現されているものがあることに気づく。</p>	<p>What do you want? The 'A' card, please.</p>	<p>アルファベット A ~ Z, one ~ thirty, what, do, you, want, please.</p>	<p>☆アルファベット (PROGRAM 1・1年) ★アルファベットの大文字、ABC song ②アルファベットの文字と発音、フォニックスの基本 ③大文字/小文字 ④簡単な単語 touch, write, play, use, eat, etc. ○ ①アルファベットになれよう ○ ②アルファベットが書けるよう ○ ③アルファベットで遊ぶ ● ④ 何かせて、発音して、キャラクターを身につけさせる。 ☆国際フードフェスティバル (PROGRAM 5・1年) ★アルファベット大文字のアルファベットと一緒に、民族衣装や料理を体験する。 ○ This is my bag. Is that your bag? Yes, it is. No, it isn't. Where is my key? It's on the table. This is my mother. She is a teacher too. This is my father. He is a teacher. あれは～を言う ● ① 対話 これは～を言う ● ② 食文化における国際理解と服装を通しての異文化理解が図られている。 ☆Origami (PROGRAM 8・1年) ★本が折り紙を見せるとスビーチをし、紙を折ることができるかが話題になる。日本の伝統の折り紙が世界中に広まっていることも取り上げる。日本文化のよさを外国の方々々に伝えることができるよう学習させる。 ☆曜日の言い方 (Word Web 2・1年) ★曜日のたずね方と天気の話のたずね方。 ○ Sunday ~ Saturday, What day is it today? How's the weather today? It's fine. ● 小学校英語ですべてに親しんできた「英語の曜日」を、その曜日とともにもっと慣れ親しむようにする。その上で、曜日を用いた英語表現を聞いて理解し、言えるようにする。 ☆マイクと日記が日曜日の過ごし方について話している。 ○ What do you study on Monday afternoon? I study English and Japanese. ● 相手への質問をするのか質問するのかわたすねたり答えたりできるようにしよう。</p>
<p>Lesson 7 What's this? ④ 身の回りの物</p>	<p>・ある物について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ・ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・日本語と英語の共通点や相違点から、言葉のおもしろさや気づかす。</p>	<p>What's this? It's a piano.</p>	<p>what, is, this, it, cat, mat, cap, tomato, pineapple, guitar, banana, piano, baseball</p>	<p>☆曜日の言い方 (Word Web 2・1年) ★曜日のたずね方と天気の話のたずね方。 ○ Sunday ~ Saturday, What day is it today? How's the weather today? It's fine. ● 小学校英語ですべてに親しんできた「英語の曜日」を、その曜日とともにもっと慣れ親しむようにする。その上で、曜日を用いた英語表現を聞いて理解し、言えるようにする。 ☆マイクと日記が日曜日の過ごし方について話している。 ○ What do you study on Monday afternoon? I study English and Japanese. ● 相手への質問をするのか質問するのかわたすねたり答えたりできるようにしよう。</p>
<p>Lesson 8 I study Japanese. ⑤ 教科、曜日</p>	<p>・時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ・時間割に慣れ親しむ。 ・世界の小学校の学校生活に興味をもつ。</p>	<p>I study math on Monday. What do you study on Tuesday?</p>	<p>Sunday ~ Saturday, Japanese, English, math, social studies, science, music, P.E., calligraphy, home economics, arts and crafts, study, on, I, you, what, do</p>	<p>☆曜日の言い方 (Word Web 2・1年) ★曜日のたずね方と天気の話のたずね方。 ○ Sunday ~ Saturday, What day is it today? How's the weather today? It's fine. ● 小学校英語ですべてに親しんできた「英語の曜日」を、その曜日とともにもっと慣れ親しむようにする。その上で、曜日を用いた英語表現を聞いて理解し、言えるようにする。 ☆マイクと日記が日曜日の過ごし方について話している。 ○ What do you study on Monday afternoon? I study English and Japanese. ● 相手への質問をするのか質問するのかわたすねたり答えたりできるようにしよう。</p>
<p>Lesson 9 What would you like? ④ 料理</p>	<p>・欲しいものについて丁寧に尋ねたり答えたりしようとする。 ・欲しいものについて丁寧に尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・世界の料理に興味を持ち、欲しいものを尋ねたり言ったりすることに気づく。</p>	<p>What would you like? I'd like a hamburger.</p>	<p>would, I, you, like, what, onelet, hamburger, omelet, hamburger steak, salad, cake, spaghetti, hotdog, pizza, ice cream, yogurt, pudding, orange juice, parfait, sushi, sausages, fried chicken, green tea, natto, miso soup, rice, bread, French fries, apple, banana, pineapple, peach, cherry, grape, lemon, kiwi fruit, strawberry, melon,</p>	<p>☆買い物② (ハンバーガーを注文する) (Power-Up Speaking 3・2年) ○ May I help you? Which size of cola would you like? For here or to go? ① 対話 「食卓」、 「買い物」、 「旅行」 ② 対話 海外旅行をしたときに、ファースト・フード店で食べ物注文する場面を想定している。 ③ 言語の働き 「説明する」、「断る」、「礼を言う」 ● 典型的なファーストフード店で、英語で「注文する」際の基本的な英語表現に慣れるとともに、自分でも使えるようになることをねらっている。 ☆英語で料理 Recipes for Hiroshima-style Okonomiyaki ★広島風お好み焼きの材料を6つのステップでその作り方を説明した。英語の材料を6つから読んでいく。 ● この明を、広島風お好み焼きを両に取り上げ、料理のレシピについて英語で発信することをねらっている。</p>

7 資料②：「しそのの逸話 一千種編」 翻訳の試み

「しそのの逸話」には、旧宍粟郡時代から山崎編・一宮編・波賀編・千種編・安富編の五つがあり、数年前から各町の美しい映像と挿絵を織り交ぜたDVDが山崎町の「デジタル工房・本門」によって作製され、市内各所の観光拠点やしそのチャンネルで放映されている。千種編には8話が収められているが、その中の一つ、「お花屋敷と忠佐護神社」の翻訳を試みた。近い将来、英語字幕の出るDVDや英語絵本等への教材化を図り、小中高で広く活用できればと思っている。

お花屋敷と忠佐護神社 (O-hana House and the Chusago Shrine)

<p>むかしむかし…</p> <p>千種の岩野辺という里に“お花”というとても美しい娘が住んでおりました。</p> <p>お花は里の人から“小町娘”と呼ばれるほどの美人でしたが</p> <p>二人暮らしの母親を助けて、家事や農耕にせっせと励んでいました。</p> <p>そんな慎ましい生活が続いたある日の夜更け</p> <p>お花の母親はいつごろからか</p> <p>お花の許(もと)へ男が通って来ていることに気づきました。</p> <p>心配した母親が、物陰からそっとお花の部屋をのぞき見たところ</p> <p>肩衣袴(かたぎぬばかま)に身を整えた凛々しいでたちの武士が</p> <p>お花と肩を寄せあって仲良く話していました。</p> <p>母親は、あのような立派な武士がしがらない農家の娘の所へ</p> <p>忍んでやって来るものだろうかと怪しみましたが、近所の人たちにも</p> <p>武士のことを尋ねるのをはばかり一人で悩んでおりました。</p> <p>しかし、どうしても武士の素性を確かめたいと思い悩んだあげく</p> <p>何年も前から紡ぎためていた長い長い麻糸を針に通して、こっそり武士の袴に刺し、糸をたどって後をつければ</p>	<p>Once upon a time ...</p> <p>In a village called Iwanobe, Chikusa, there lived a very beautiful girl named "O-hana."</p> <p>Though she was such a beautiful girl that the people of the village called her "Komachi-Musume,"</p> <p>she always worked hard to help her mother doing household affairs and farming.</p> <p>After leading such a modest life, one day, late at night,</p> <p>the mother of O-hana</p> <p>noticed that a gentleman had been visiting her daughter.</p> <p>When the worried mother peeked in O-hana's room from a concealed place,</p> <p>she witnessed a dignified samurai, attired in kimono and hakama pleated skirt,</p> <p>talking very intimately with O-hana, putting their shoulders together.</p> <p>The mother doubted that such a great-looking samurai will come and meet in secret</p> <p>a peasant girl of poor birth, however, she could not ask her next-door neighbors</p> <p>about the samurai gentleman, distressed deeply by herself about the matter.</p> <p>However, after all her worries that she wanted to identify the man,</p> <p>she decided to take action, putting a very long hemp yarn through the eye of a needle and secretly pricking it into the samurai's hakama, and discreetly following after the thread.</p>
---	---

<p>武士の住いを突き止められるのではないかと考えました。</p> <p>母親は早速、二人が逢瀬を楽しんでいる夜更けに</p> <p>お花の部屋に忍び込み、</p> <p>二人に気づかれないように武士の袴に針を差し込みました。</p> <p>あくる日の早朝 —</p> <p>武士が、お花の部屋から足早に帰って行くのを見届けた母親は</p> <p>武士の袴から伸びる麻糸をたどってその後を追いました。</p> <p>しかし、およそ二町（約二百メートル）ほど行ったところで、</p> <p>麻糸は小河内川の深い淵の中へと消えていたので、</p> <p>母親は、いよいよ怪しみ、</p> <p>辺りを探してみると、</p> <p>少し離れたところに大蛇の死体が浮かんでいるを見つけました。</p> <p>その尻尾に例の針が刺さっていた事で</p> <p>母親は、武士の正体が大蛇の化け物だったことを悟りました。</p> <p>そうとは知らなかった母親が針を刺したことによって、大蛇は</p> <p>物の怪が苦手とする鉄の中毒にかかって死んでしまったのでした。</p> <p>大蛇が消えたという“蛇の淵”</p> <p>明治三十三年の洪水で埋もれてしまいました。</p> <p>数ヶ月の後、お花は自分が身籠っていることを母親に告げました。</p> <p>驚いた母親は、大蛇の子を宿したのではないかと思ひ、</p>	<p>She thought she could pin down the samurai's residence.</p> <p>The mother lost no time in carrying out the plan. When the young couple enjoyed their secret rendezvous late at night,</p> <p>she sneaked into O-hana's room</p> <p>and without being noticed by them, she pricked the needle into the hakama of the samurai.</p> <p>Early morning of the following day ---</p> <p>after she watched the samurai stalk from the room and leave the house,</p> <p>she followed him, tracking the long thread from his hakama.</p> <p>But at the place of about 200 meters away,</p> <p>she found that the hemp yarn disappeared into the deep water of the Kogouchi River.</p> <p>So she became more suspicious of the samurai,</p> <p>and she searched around the river.</p> <p>Then, at a place a few steps away, she discovered the dead body of a serpent floating in the water.</p> <p>The fact that the snake got a needle stuck in its tail</p> <p>made her realize that the samurai was actually the avatar of a serpent.</p> <p>Because the mother pricked a needle into the body, not knowing his identity, the serpent</p> <p>died of iron poisoning at which monsters are so weak.</p> <p>“The Snake Deep,” where the serpent had gone.</p> <p>It was buried because of the flood in the 33rd year of the Meiji period, in 1900.</p> <p>Several months later, O-hana told her mother she had become pregnant.</p> <p>The mother was greatly surprised and suspected that her daughter had conceived a baby of the serpent,</p>
---	---

<p>慌てて、鉄漿汁（おはぐろじろ）を飲ませました。</p> <p>数日経って、お花は八匹の蛇の子を死産し、</p> <p>その恐怖からか、まもなく自身も帰らぬ人となってしまいました。</p> <p>後に村人たちは蛇の子の霊を鎮めるため</p> <p>“忠佐護神社”としてお祀りしました。</p> <p>また、お花の家を“お花屋敷”と呼んで哀れんだといいます。</p> <p>蛇の化身が娘の所に忍んでくる話は“芋環(おだまき)型蛇婿入り”といい、</p> <p>日本各地に多くの類話が分布しています。</p> <p>また、千種には昔から“千種美人”と呼ばれる綺麗な娘が多かったため</p> <p>このような物語が戒めとして語り継がれたのではないとも言われています。</p>	<p>and she hastily made O-hana drink abortion soup of "O-haguro-jiru."</p> <p>Then, several days later, O-hana gave birth to eight small stillborn snake babies.</p> <p>Frightened and shocked at the fact, O-hana soon took her own life.</p> <p>Later, the people of the village, to sooth the souls of the snake babies,</p> <p>built "The Chusago Shrine" and worshiped them.</p> <p>They also called her house "O-hana Yashiki" and felt pity for the poor girl.</p> <p>The story of a serpent's avatar secretly visiting a girl is called "The Odamaki type of Muko-iri-marriage,"</p> <p>and similar stories are widely spread all over Japan.</p> <p>Also, in Chikusa there have long been many beautiful girls called "Chikusa Beauties."</p> <p>Therefore, this type of tale is said to have been handed down in the village as a warning story.</p>
--	--



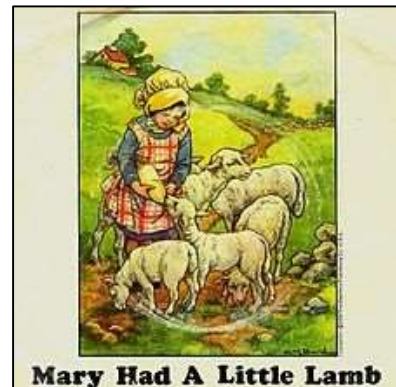
8 資料③：「マザーグース童謡集」（小中高連携授業使用教材）

英語の発音やリズムの習得は勿論、英米の文化に触れる上で「マザーグース」は最適の教材である。小学校・中学校の連携授業では最初の10分間、以下のようなプリントを配布して英米の童謡を紹介し、音読・歌唱指導を行った。ちくさっ子たちに浸透すれば、と願っている。

Let's Sing Mother Goose !

TWINKLE TWINKLE LITTLE STAR (きらきらぼし)

Twinkle, twinkle, little star きらきら ひかっている ちいさな おほしさま
(トゥィンクル、トゥィンクル、リトゥルスター)
How I wonder what you are! あなたは いったい だれなの？
(ハウアイワンダー、ウォッチュアー)
Up above the world so high あたまの うえの ずっと たかいところで
(アップアバブ、ザワールソオハイ)
Like a diamond in the sky そらに かがやく ダイヤモンドみたいに
(ライクアダイアモン、インザスカイ)
Twinkle, twinkle, little star きらきら ひかっている ちいさな おほしさま
(トゥィンクル、トゥィンクル、リトゥルスター)
How I wonder what you are! あなたは いったい だれなの？
(ハウアイワンダー、ウォッチュアー)



MARY HAD A LITTLE LAMB (メリーさんの羊)

Mary had a little lamb, メリーちゃんは子羊を飼っていた。
(メアリハダリトゥルラム)
Little lamb, little lamb, 子羊を、子羊を、
(リトゥルラム、リトゥルラム)
Mary had a little lamb, メリーちゃんは子羊を飼っていた。
(メアリハダリトゥルラム)
Its fleece was white as snow. その毛は雪のように白かった。
(イツフリスワズワイトゥアズノウ)
And everywhere that Mary went, そしてメリーちゃんがどこへ行っても、
(アンエブリウエア、ザツメアリウエン)
Mary went, Mary went, どこへ行っても、どこへ行っても、
(メアリウエン、メアリウエン)
Everywhere that Mary went, メリーちゃんがどこへ行っても、
(エブリウエア、ザツメアリウエン)
The lamb was sure to go. その子羊は必ずついてくるのでした。
(ザラムワズシュアトゥゴウ)

JACK AND JILL

Jack and Jill went up the hill
To fetch a pail of water;
Jack fell down and broke his crown,
And Jill came tumbling after.

ジャックとジルは山道を登っていった。
バケツに水を汲もうとして
ジャックは転び、頭のとっぺんに擦り傷、
ジルも続いてすってんころり。



LONDON BRIDGE

London Bridge is falling down,
Falling down, falling down,
London Bridge is falling down,
My fair lady.

ロンドン橋が落ちこちる
落ちこちる、落ちこちる
ロンドン橋が落ちこちる
美しいお方よ

Built it up with wood and clay,
Wood and clay, wood and clay,
Built it up with wood and clay,
My fair lady.

木と粘土でまた架けろ
木と粘土で、木と粘土で
木と粘土でまた架けろ
美しいお方よ



HUMPTY DUMPTY

Humpty Dumpty sat on a wall,
Humpty Dumpty had a great fall;
All the king's horses and all the king's men
Couldn't put Humpty together again.

ハンブティ・ダンプティ 塀の上、
ハンブティ・ダンプティ すごい墜落、
王様の馬と家来が 総掛かり、
それでもハンブティ こわれたまま。



9 資料④：千種高等学校HP 英文版ブログに見る「千種の教育活動」

千種高等学校のHPをご覧いただきたい。生徒や学校教育の「今」を伝える日本語版ブログと共に英文版のブログを持ち、かなり頻繁に更新して「千種の教育活動」を海外に向けて発信している。過去ほぼ1年間の数ある記事の中から特徴的なものを幾つか掲げ、英語学習上の話題としたい。

2014/05/11 **One Month Has Passed...**

One month has already passed since the new school year started on April 8th, when we welcomed the first-year students in a solemn and heartwarming entrance ceremony. The cherry blossoms also celebrated the special day, coming out in a burst during such warm weather. The elder students welcomed the younger ones by singing the school song in chorus very proudly.



The student council held a ceremony to introduce the new comers to the seniors on the 9th, and the 10th graders introduced themselves, saying, "Hello, my name is I'm from junior high school. I'd like to join the ... club." On April 16th, they held the general assembly to officially decide the plan of activities for the whole year.



The students successfully started their lessons, getting into the rhythm of previewing and reviewing each subject, and they are now doing quite well. Let's take a look at some of their classes.



2014/06/18 The 40th Culture Festival

Last Saturday, on June 14th, the 40th Culture Festival was held at Chikusa High School, and all the students showed their great performances with tremendous support and assistance from the people of the town, Chikusa-cho. The theme of this year's festival was "With Big Dreams, Brush up Your Mind ! ~ May the moments of our stage become everlasting memories ! ~ "



The parents' performances were also superb this year. As the second picture shows, four fathers disguised themselves as samurais to set the mood for the festival. The students were delighted to see the surprising performance of the parents. The fathers' action gave a tremendous boost and energy to the students' performances on the stage. All the above pictures tell everything about the air of excitement and the fervor of the audience.



In the afternoon, all the Chikusa Junior High students joined the festival, and we enjoyed the Brass Band Concert, the drama performances by the high school students, and the powerful exchange of school songs (alma mater) of both schools. As the theme of this year clearly says, every moment of their performance surely came to be their great memories forever. We would like to express our hearty thanks to all the people who kindly supported the success of the festival. Thank you very much !

2014/08/14 Chikusa High School Science Academy

Every summer, Chikusa High School presents special science experiences to children in Chikusa. The project is called "Chikusa High School Science Academy for Children." Last week, we provided several eye-popping experiments for elementary and junior high school kids to open their eyes to the science world in the future. The first academy was held at Chikusa Elementary School on July 26th, on the site of the annual Myoken Summer Festival.

Experiment No.1 Making of Favorite Soda Juice (carbonated beverage)

About 40 kids of Chikusa Elementary School really enjoyed making their own soda juice under the instruction of Mr.Ikada, a science teacher at Chikusa High School. He explained that they must use citric acid and sodium hydrogen carbonate to produce carbon dioxide. They also used sugar and lemonade syrup or blue Hawaii syrup to make it sweet and tasty. The kids were surprised when they felt the power of salt to cool down the temperature of the water. They learned a lot of mysterious things in the process of making their own favorite drinks. At the very last stage, they showed a satisfied look when they tasted the one and only drink in the world.



Experiment No.2 Making of Water Rockets

The second stage of the academy at the festival was making water rockets by using plastic bottles, and this was really a superb experience for the boys and girls. After the explanation by Mr.Ikada, they tried making the shape of a rocket by putting some blades on the body. The secret of the rocket propulsion is the power of compressed air. As one of the pictures shows, they used a pump to heighten the pressure within the bottle, then the rockets launched into the sky with beautiful trails of water when they opened the bulb of the launching device. All the spectators were surprised and thrilled by the power of science. Above all, the young scientists were captivated with the experiment and they made a long line with a plastic rocket in their hand.



2014/09/25 Teaching English Beyond the Classroom

On September 16th, two ALTs of Chikusa Junior and Senior High School, Dave and Zach, started a new English conversation class at a vacant shop in Chikusa. The place is called "Chikusa High School Town Station," which was newly designed for creative activities for Chikusa High School students and local people. This report is taken from the weblog "Hello, I'm in Hyogo" organized by our ALT, David Berg.

This past Tuesday marked an important moment in my work as a JET here in Japan. Along with a fellow ALT, I started an "eikaiwa(English conversation)" in my hometown. While most ALTs will find this rather mundane (many JETs host classes of their own), it's exciting for me because to my knowledge, my town has never had one before. Having something I can point at and say "I started that!" is nice, as opposed to taking over responsibility for a project somebody else had a vision for. This is also one of the rare opportunities I get to meet new people and make friends in my community; unlike Tanzania, people aren't too keen about random visitors coming to their home for no particular reason but to see what they're up to. Unfortunately, I've had to restrain myself from sharing that particular part of Tanzanian culture with my town, as I've told many of my Japanese friends.

Our first class went very well. We had 4 students come, which is a pretty good turnout considering how little and last-minute we advertised. I hope we can expand the number a bit and garner more interest locally; two of our students made long drives from out of town. As you might expect, we started our inaugural class with self-introductions, which was probably my favorite part. I got to learn so many interesting things about our students! One runs a mushroom farm (and supplies our local supermarket!), another trains rescued dogs, and another was a JICA volunteer in Chile. As an added bonus, they were speaking English so I was easily able to understand it! After self-introductions, we played a quick game and my fellow teacher gave a nice pronunciation explanation about the difference between "shi" in Japanese and "si" in English. Before we knew it, 90 minutes had vanished and class was over.



For now, we've decided to teach this class once a month and simply plan the dates one month at a time. We don't have any particular objective yet, but once we get to know our students better, we will probably consider helping them set goals for their language learning.

2014/10/17 Autumn Festival in Chikusa 2014

On October 11th and 12th, we witnessed the various interesting shows and performances of autumn festival here in Chikusa. Each community has its own shrine and the people are strongly connected with each other based on their worship and respect for traditional customs handed down from generation to generation. Our ALT, David Berg, describes what he saw at the festival.

Last weekend, we celebrated our Autumn Festival here in Chikusa. We dusted off our mikoshi (or “portable shrine”), put on our festival garbs, and took the streets by storm. The mikoshi was pushed by our junior high school students, and inside the small shrine, an elementary school students sat at a taiko drum, setting the cadence as we walked.

At the Autumn Festival, we walked a long route around the main roads in downtown Chikusa. It takes around 2 hours to finish the loop. During the walk, we took some time to rest every so often (and also to switch drummers in the mikoshi). Additionally, there were three points along the route where the students gave a special performance with the shrine. At two of these points, the junior high kids showed off their quickness by breaking into a full sprint, pushing the mikoshi along with them. The last point was the most impressive, as they took the shrine off its wheels and spun it on the street. Considering how heavy the mikoshi is, their strength and agility in this practice was impressive.



When we returned to our real shrine, called Omori-jinja or “Big forest shrine,” we were greeted by plates of hot, delicious oden, which is a variety of boiled foods, including radish, eggs, and konnyaku. We also had amazake, which is a hot drink made from fermented rice that is sweetened with sugar. At the end of the festival, some of the men took part in a Shinto ceremony to offer up prayers for the community.

This was a much different experience than last year for me, when I was just a couple months into my tenure on the JET Programme. I knew very few people in the community then, and I didn’t walk with the shrine. This year, I was better able to understand what was going on and I felt a greater sense of belonging. Now I am looking forward to my second experience of many other festivals in Chikusa!



2014/11/15 School Excursion in Guam 2014

From November the 10th through the 14th, 37 Chikusa High School 2nd-year students had superb experiences on the tropical island of Guam. On the heavenly beautiful island in the Pacific, they tried scuba diving, had impressive cultural exchanges with the Chamorro people at LINA'LA' Beach & Culture Center, were excited by watching dolphins flying in the ocean, and enjoyed viewing coral reefs with colorful fish from the windows of the submarine Atlantis.



The most active part of this trip was in the karate demonstration and the fishermen's dance performance of "So-ran" on the stage in the Chamorro Village night market on the third evening. Prior to the show, the students demonstrated how to play with "Take-tombo (bamboo helicopter)," a traditional Japanese toy of their own making, and they presented them to the local audience. The people around the stage were deeply impressed with the show and gave a big hand to the youngsters from Chikusa, Japan.

Their excitement reached a climax when they witnessed the breathtakingly beautiful scenes of the sunset on the fourth evening. We went on a dinner cruise to enjoy the panoramic view of the ocean, and encountered glorious spectacles even William Turner could not draw. The clouds rising up from the horizon were, in the true sense of the word, the natural sculptures created by the Almighty. The beauty of the light and the shadow, and the subtle changes of the colors of red, purple, yellow, orange, and gray were all beyond description. Who could draw such a picture? Who could create such a landscape? Although no one could answer the questions, the students actually discovered something very precious on this island of heavenly peace. We reaffirmed the righteousness of the idea that nature can heal.



This trip has also been a great opportunity for the students to rediscover their inner-self and the relationship with their own classmates. We do hope that the up-and-coming young people of Chikusa will surely achieve their goals in life based on these highly condensed experiences in Guam.

2015/01/27 Ieshima HS Came to Chikusa !

Yesterday, on January 26th, 48 students and 5 teachers of Ieshima High School came to Chikusa. We really had a great time in sharing school cultures and practicing skiing together at the Chikusa Kogen Ski Resort. This annual event is called "The Exchange Program between Mountain and Sea Schools," in which we visit Ieshima to enjoy canoeing in August and Ieshima HS comes to Chikusa to experience skiing in January. Both schools have continued this exchange for more than ten years.



In the winter version of the 2015 program, we witnessed the successful exchange of the traditional performing arts of both areas in Hyogo prefecture before going to the Ski Resort. 13 Chikusa students demonstrated beating Japanese drums or "Chikusa-Daiko," and two Ieshima youngsters performed the thrilling lion dance or "Maura no Shishimai." Both high schools are noted in preserving and promoting local traditional performing arts for our younger generations.

After the epoch-making cultural performances, the students of both schools went to the ski resort, but unfortunately enough, they had a difficult time practicing skiing because of the continual rainfall even up on the mountain, which is about 900m above sea level. However, in such conditions, the Ieshima students tried hard to acquire the skiing skills with the help of Chikusa friends. They looked satisfied when they finished the one-day program around three o'clock in the afternoon. We do hope that many young people will come and enjoy skiing and snowboarding in this wonderful snow village of Chikusa!



2015/03/01 40th Graduation Ceremony Held

On February 27th, last Friday, the 40th graduation ceremony was held at Chikusa High School, and 32 students opened the doors to the next stage of their life with stars in their eyes. Parents and teachers gave a round of applause toward their remarkable achievements for the past three years, and all the first and second graders paid high respect to their senior students for the glorious activities to lead the school.

The ceremony was held according to the typical procedure you often see in many schools in Japan : 1. Opening Remarks, 2. Singing of the National Anthem, 3. Presentation of Diplomas, 4. Principal's Speech, 5. Guests' Speeches, 6. Introduction of the Guests, 7. Introduction of the Congratulatory Messages, 8. Speech by the Juniors, 9. Speech by the Valedictorian, 10. Singing of the Graduation Song, 11. Singing of the School Song, 12. Closing Remarks.

After the ceremony, the new graduates entered their homeroom with their parents to share the last precious moment of the class activity, expressing their hearty thanks to the teachers and parents for what they have given to the young people for so many years. On the blackboard was the words, "Congratulations on your Graduation!," written and decorated by junior students on the previous evening.

The junior or "kohai" students had been waiting long before they finally shared a great time with their "sempai(seniors)" to express their thanks in the field of club activities. The west square of the school was the very scene of the exchange of farewell words among the club members, shaking hands, giving some presents, and even tossing someone into the air...to imprint each word and action on their memory forever.



2015/03/02 The First Smartphone Summit in Hyogo Held

On February 28th, we witnessed an epoch-making symposium, named "SUMAHO Summit in Hyogo" hosted and organized by an NPO "Hyogo Youth Services Administration (*Hयोगoken Seishonen Honbu*)" at *Hyogo Kenmin Kaikan*, Kobe. The purpose of the meeting was to introduce some progressive approaches in Hyogo Prefecture to improve information morals or netiquette, and to reveal the reality of the use of cellphones and smartphones among young people based on a survey and questionnaire targeting more than 2,000 students and children in Hyogo.

The Student Council of Chikusa High School was selected as one of the best presenters of progressive activities in Hyogo, and the three students took part in the meeting to introduce the activities we have been conducting since last school year.

The most thrilling and interesting part of the Summit lied in the discussion session by the presenters: elementary school kids, junior and senior high students. The young panelists were so direct and honest to talk about their real use of their phones and devices that the whole audience was consistently surprised at their statements. Among the speakers, our student, Mr.Moriwaki, showed the best initiative in the discussion and made the session very interesting and illustrative to get an image of the reality.

Another key figure in the meeting was, of course, the coordinator, Mr.Kazuo Takeuchi, an associate professor at the University of Hyogo, specializing in student counseling and guidance. His clear and outspoken approach toward the issue greatly helped us understand the core of the problem, and he was so skillful in inducing the opinions of the young people that we really enjoyed the lively give and take of the ideas in the symposium.

It is clear that the first Summit in Hyogo made history, and we are so proud and delighted that Chikusa students were a part of it.



10 編集後記

千種町は「連携・一貫教育」の総本山であり、他町では決して類を見ない実践に次ぐ実践の宝庫です。平成22年度の、「学校運営協議会（小学校・中学校）」の設置、中高による「連携型中高一貫教育校」への改編 — これらは共に兵庫県下初の試みであり、その前年に始まった「保幼小中高合同ふれあい文化祭」は、全国的にも類稀なる異年齢集団合同の活動の場として回を重ね、現在に至っています。

平成25年度から取り組んだ、千種町内学校園での英語教育研究は、そのような教育文化を持つ千種町だからこそ可能になったことであり、他町ならばここまでスムーズにできるかどうかは甚だ疑問であると言わざるを得ないでしょう。私自身、高校の教頭でありながら中学校や小学校の職員室に遠慮なく入っていったということが、この事業を推進する上でどれだけ助けとなったか、それは言うまでもありません。

資料の中に、「しその逸話 -千種編-」翻訳の試みを加えていますが、これは言わば千種学と英語教育の合体を志向したものであり、小学校から高校まで年齢層に応じて使える地域密着型の教材開発及び授業実践こそが「故郷を大事にしつつ、世界に目を向ける」児童・生徒の育成に繋がると考えています。即ち、「グローバル」な教材の登場を「待つ」のではなく、自分たちの力で「生み出す」試みが大事なのではないのでしょうか。

また、この2年間英文のブログを通じて千種高校の教育活動や千種町の自然・歴史・文化について発信してきましたが、これだけ「グローバル化教育」ということが叫ばれているにも関わらず、日常的に生徒の様子を英文で発信している学校がほとんどない、ないならば自らそのモデルを作ろう、というのがそもそものきっかけでした。今後、同様の動きが数多くの中学校・高等学校で生まれて来ることを楽しみにしています。

「千種町英語教育研究会」と銘打ったこの活動が、今後どれほどの意味を持つのか、それは定かではありません。しかし、自分の学校や同一校種の中だけで教科領域研究を進めていけばよい時代は既に過ぎ去っており、異年齢・異校種間での交流が今後さらに重要になってくると考えています。

最後になりましたが、本研究会の活動は、兵庫県教育委員会主催「教職員自主的研究推進事業」の助成を得て実施して参りました。深く感謝の意を表すとともに、今後ともさらなる研究の遂行をお誓い申し上げ、終わりの言葉と致します。

兵庫県立千種高等学校 教頭 原 田 尚 昭

平成26年度

千種町英語教育研究会実践記録集

平成27年3月30日 印刷

平成27年3月31日 発行

編集・発行 千種町英語教育研究会
